## 2025年3月期 第1四半期 決算説明資料

株式会社ゼネラル・オイスター (3224)



2024年8月14日



# 1. 2025年3月期 第1四半期 決算 トピックス



## 2024年3月期 第1四半期 決算ハイライト





#### ノロウイルスの蔓延の影響と、コスト上昇で減益

2月から発生した、全国でノロウイルスの蔓延があり当社の基準の生牡蠣の調達が困難になり、店舗事業、卸売事業とも 営業縮小が余儀なくされ、その影響が売上減が4月まで続いたこととコスト上昇により対前年比△41百万の減益。

#### 営業利益は、対前年比△41百万円の△45百万円と減益。最終損失は37百万円



主に店舗事業では、原材料費や、人件費の高騰など販管費の増加などにより、営業利益対前年比△53百万円の20百万円と減益。好調に推移していた卸売事業もノロウイルスの影響で、売上の伸びが鈍化して営業利益対前年比△8百万円の19百万円と減益。親会社株主に帰属する当期純利益は対前年比△39百万円の△37百万円の最終赤字。

#### 陸上養殖事業から撤退し、経営資源の集中へ



牡蠣の陸上養殖の量産化を目指すフェーズに入ったものの、未だ研究開発段階であって、商用化・量産化には、更なる時間と設備投資などの資金が必要となります。このような厳しい環境を鑑み、更なる時間と資金が必要な陸上養殖を撤退し、 基盤事業の店舗事業、卸売事業へ注力し、新たな成長基軸としての再生可能エネルギー(太陽光事業)にも注力することで、経営資源を集中し、企業価値の向上を図っていきます。

## 2025年3月期第1四半期 概要



売上高は910百万円(前年同期比9.0%増)と増収。営業利益は店舗事業が原材料費や人件費の高騰などによる販管費の増加により前年比△41百万円の△45百万円と減益。

親会社株主に帰属する当期純利益は、前年比△39百万円の△37百万円。

	2020年 第1四 (参考・コ	半期	2024年3月期 第1四半期		2025年3月期 第1四半期		1四半期 第1四半期 前年同		前年同期比
	実績 (百万円)	構成比 (%)	実績 (百万円)	構成比 (%)	実績 (百万円)	構成比 (%)	(%)		
売上高	803	100.0	835	100.0	910	100.0	+75 (+9.0%)		
売上原価	280	34.8	275	33.0	350	38.5	<b>+75</b> (+27.1%)		
売上総利益	523	65.1	559	67.0	559	61.5	+0 (+0.1%)		
販売管理費	594	73.9	563	67.5	604	66.5	+41 (+7.2%)		
営業利益	<b>△71</b>	△8.8	△4	△0.6	△45	△5.0	△41		
経常利益	△70	△8.7	△5	△0.6	△46	△5.1	△41		
特別利益	-		1		0		△1		
特別損失	-		-		-				
親会社株主に 帰属する 当期純利益	△63	△7.9	1	0.2	△37	△4.1	△39		

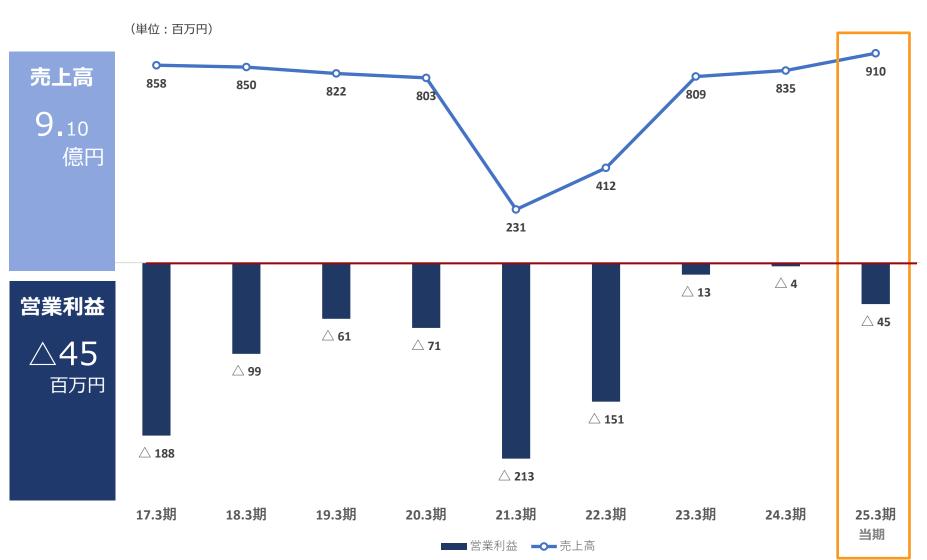
1 店舗事業の 販管費が前年 より増加

2 店舗、卸とも 営業利益は減益

## General Oyster

## 第1四半期 連結業績について

売上高は加工事業の受注増により増収。しかし営業利益は、店舗事業の原材料費や人件費の高騰などによる販管費の増加を カバーできす、対前年△40百万円の△45百万円と減益。



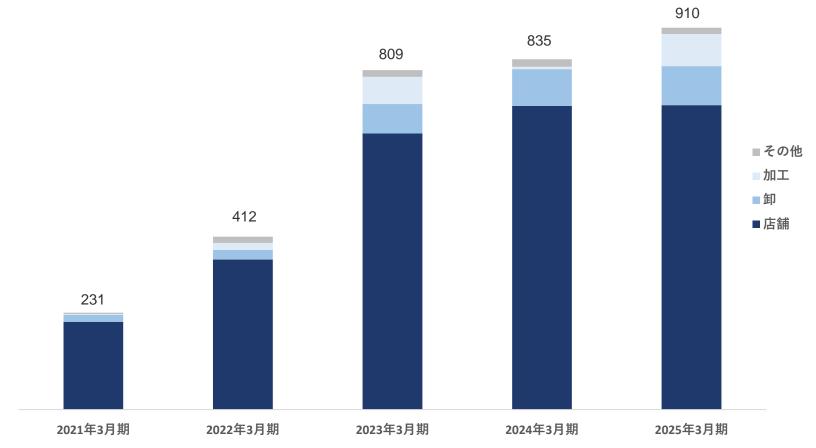
## 第1四半期 連結売上高推移



グループ全体では2024年3月期第4半期の能登半島地震の、富山入善での取水トラブルや、ノロウイルスの蔓延の影響で、 売上に急ブレーキがかかり、当2025年3月期第1四半期の4月までその影響が続き、対前年+9.0%の910百万円に留まった。

#### 1Q連結売上高推移

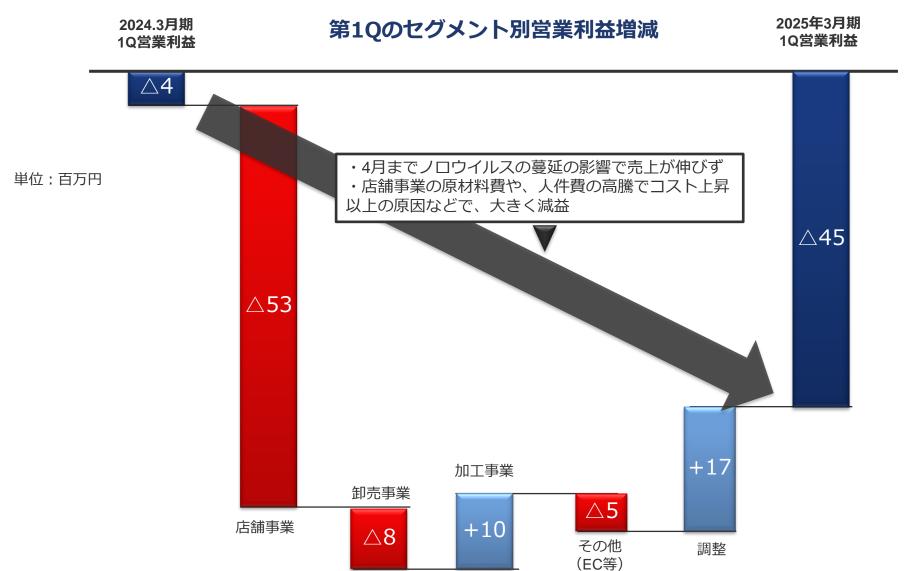




### 第1四半期の各セグメント別の減益要因



1月からのノロウイルスの蔓延などで牡蠣の供給が停止するなどその影響が4月まで響き、店舗では・卸売事業と減益。 これらにより、連結での営業利益は対前年比△41百万円の△45百万円となった。



## 2025年3月期第1四半期 連結損益計算書



前期に店舗の将来に向けたスクラップ&ビルドなどで、店舗数は増えたものの、ノロウイルスの影響などで、売上を伸ばしきれず。また店舗事業の原材料費の上昇や人件費などの販管費が全社で+7.2%増加したことで、営業利益は△45百万円と減益。

(百万円)	2024年3月期 第1四半期	2025年3月期 第1四半期	前年同期比	増減率
売上高	835	910	+75	+9.0%
売上原価	275	350	+75	
原価率	33.0%	38.5%	+5.5pt	
売上総利益	559	559	+0	+0.1%
売上総利益率	66.9%	61.5%	$\triangle$ 5.4pt	
人件費	201	218	+17	
地代家賃	105	114	+9	
減価償却費	12	20	+8	
その他販管費	244	251	+7	
販管費合計	563	604	+41	+7.2%
販管費率	67.5%	66.5%	riangle 1.0pt	
営業利益	△4	△45	△41	
営業利益率	△0.5%	△5.0%	$\triangle$ 3.5pt	

## 貸借対照表概要



2024年6月期末の総資産は24.32億円、前期末比+1.96億円。 自己資本は8.89億円、自己資本比率は36.6%。引き続き、収益力を高め、財務基盤の強化を図る。

(百万円)	2024年3月期 期末	2024年3月期 第1四半期		2024年3月期 期末	2024年3月期 第1四半期
資産の部	-		負債の部	-	
流動資産	1,245	1,397	流動負債	473	727
現金及び預金	855	706	   買掛金 	124	104
売掛金	207	228	   短期借入金 <sup>*1</sup> 	67	67
原材料	77	62	その他	282	555
未収入金	30	23	固定負債	852	841
その他	75	377	長期借入金	387	370
固定資産	691	739	その他	465	470
有形固定資産	677	726	負債合計	1,326	1,569
その他	13	12	純資産の部		
投資その他資産	298	294	株主資本	927	888
敷金及び保証金	298	294	その他	△17	△25
繰延税金資産			   純資産合計 	909	864
資産合計	2,235	2,432	負債純資産合計	2,235	2,432



## 2025年3月期第1四半期 セグメント別業績概況

店舗事業の営業利益は、原材料費や人件費の高騰などで、前期比△53百万円の20百万円と大幅な減益。卸売事業もノロウイルスの影響で、売上を伸ばせず減益となった。一方、「加工事業」については受託事業の受注が増加し、前期に比べ損失幅が縮小。

#### セグメント売上高

#### セグメント営業利益

(百万円)	2024年3月期 1Q	2025年3月期 1Q	前年同期比	増減率		(百万円)	2024年3月期 1Q	2025年3月期 1Q	前年同期比	増減率
店舗事業	728	731	+3	+0.4%		店舗事業	73	20	△53	△71.8%
卸売事業	88	93	+5	+6.3%		卸売事業	27	19	△8	△28.9%
加工事業	6	77	+71	+1,283%		加工事業	△21	<b>△11</b>	+10	_
その他 ※1	18	15	△3	△18.5%		その他 ※1	4	<b>△1</b>	△5	_
調整	△5	△7	△2	_	_	調整	△89	△72	+17	_
合計	835	910	+75	+8.9%	_	合計	△4	△45	△41	_

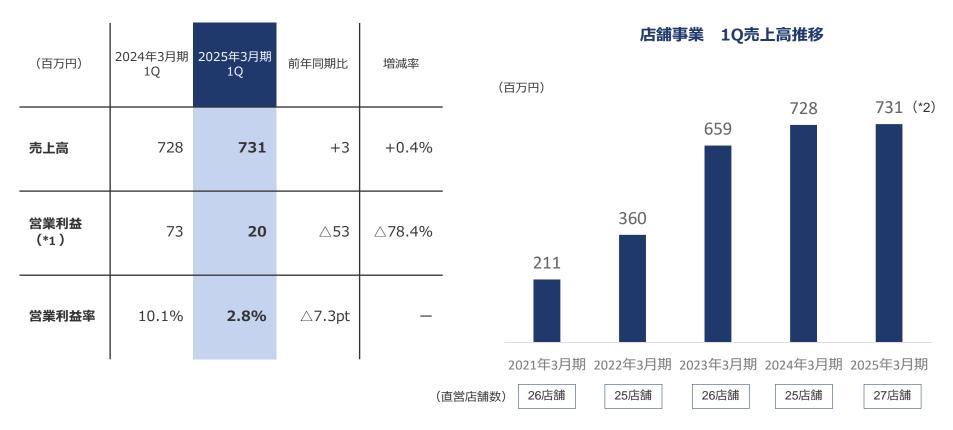
<sup>\*1:</sup>EC通販、海外卸など

<sup>\*1:</sup>EC通販、海外卸など

## 店舗事業



売上高はノロウイルスの影響で売上が微増にとどまり、原材料費や人件費率の高騰により販管費が増加したことなどの影響で、営業利益は、前年比△53百万円の大幅な減益となった。



<sup>\*1.</sup>セグメント利益は配分していない全体費用が含まれております。

\*2.FC店舗の売上は、ロイヤリティ収入のみ計上





新規出店1店舗

⇒2024年6月末全店舗数:28店舗(直営:27店舗、FC:1店舗)

	2024年3月期 期末	増派	<b>載数</b>	2024年 6月末	業態変更
	店舗数	出店	退店	店舗数	来恩女丈
直営店舗 合計	26	1	0	27	
FC店舗	1			1	
全店舗店舗 合計	27	1	0	28	

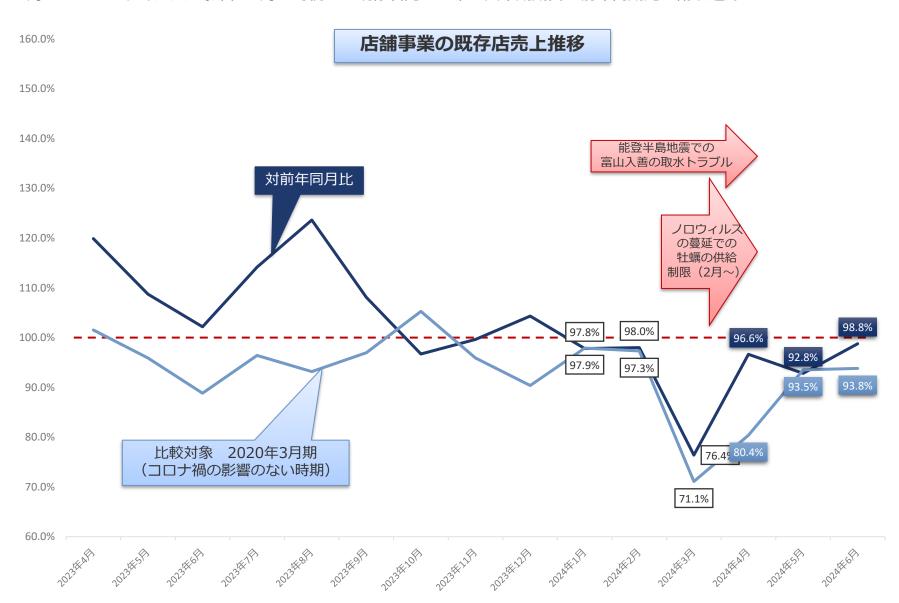
新規出店1店舗の主な内訳

・主要ブランド「8TH SEA OYSTER Bar」 (直営店舗) 横浜モアーズ店

## 店舗事業 (既存店売上高 (前年比、コロナ前比))



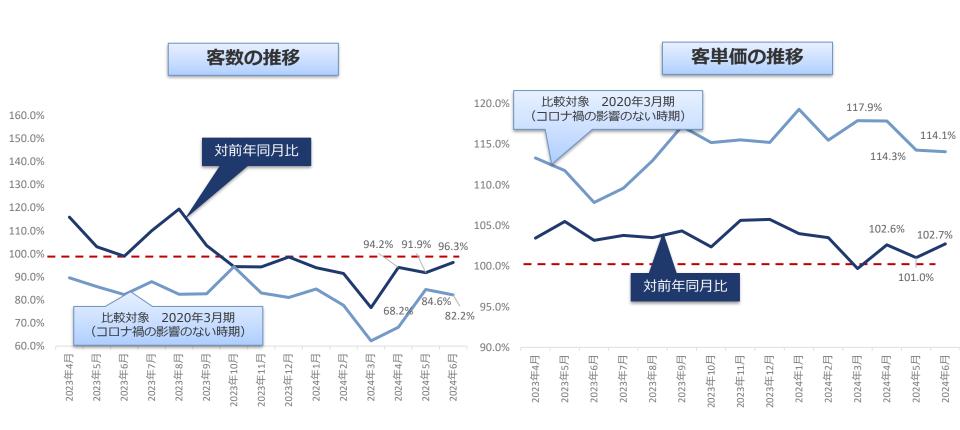
2月からのノロウイルスの影響は4月まで続き、既存店売上の第1四半期期間は前年同期比を割り込んだ





## 店舗事業 (既存店客数・客単価(前年比、コロナ前比))

客数、客単価ともノロウイルスの影響で、低調に推移



## 卸売事業



好調に推移していた卸売事業も、第1四半期はノロウイルスの影響で売上を伸ばせず減益となった。

(百万円)	2024年3月期 1Q	2025年3月期 1Q	前年同期比	増減率
売上高	88	93	+6	+6.3%
営業利益 (*1)	27	19	△8	△28.9%
営業利益率	31.5%	21.0%	△10.5pt	_

## 卸売事業 売上高推移 (百万円) (\*2) 88 70 23 17 2021年3月期 2022年3月期 2023年3月期 2024年3月期 2025年3月期

\*2.FC店舗の牡蠣の卸売売上を計上

<sup>\*1.</sup>セグメント利益は配分していない全体費用が含まれております。

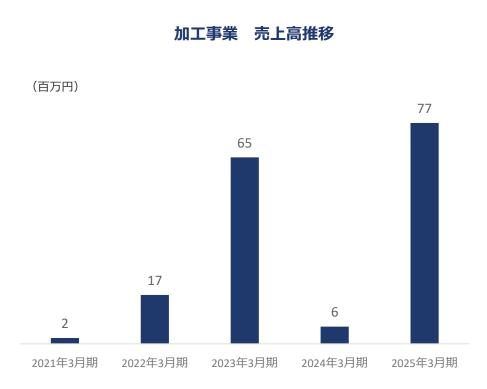
## 加工事業



加工事業は受託事業が伸び、損失が縮小。

(百万円)	2024年3月期 1Q	2025年3月期 1Q	前年同期比	増減率
売上高	6	77	+71	+1,283%
営業利益	△21	△11	+10	_
営業利益率	_	-	_	_

<sup>\*1.</sup>セグメント利益は配分していない全体費用が含まれております。



\*2.グループ各社への売上は原材料費のみ計上

# 2. 今後の取り組みについて





## 2025年3月期の経営戦略の見込み

禍に臨機応変に対応しつつ、再成長へ向けた取り組み

方針	重点施策	進捗状況	活動計画
『守りの取り組み』	コストコントロールの徹底	0	引き続き、推進
	「EC通販の強化」など 販売チャネルの多角化	0	引き続き、売上伸長を推進
	店舗事業の収益拡大	0	少ない売上でも利益を出せる筋肉質なコスト構造への転換が完了。今後も更なる定着化を進める。
再成長に向けた   『攻めの取り組み』 	国内卸売事業の収益拡大	0	2 桁成長を維持し、更なる 高利益体質に。
	加工事業による収益貢献	Δ	稼働の改善を進める。
	店舗事業のITを活用しての効率化	0	引き続き、推進
	再生可能エネルギー(太陽光事業)への参入	0	2025年下期から収益化

# 3. 2025年3月期 業績見通しについて



## 通期業績の見通しについて



オイスターの安心安全の高付加価値化の実現し既存事業の立て直しと、再生可能エネルギー事業(太陽光)など新たな成長軸をプラスさせ、持続的成長の実現と企業価値の向上を図ってまいります。

(百万円)	2024年3月期 通期実績	2025年3月期 連結業績予想	前年同期比 (%)
売上高	3,790	5,130	+1,340 (+35.4%)
営業利益	16	189	+173 (+1,081.2%)
経常利益	29	185	+156 (+532.8%)
親会社株主に 帰属する 当期純利益	△104	130	+234



#### 免責事項

本資料に記載されている将来に関する内容は、当社グループが資料作成時点において入手可能な情報に基づいたものであり、潜在的なリスクや不確実性を含んでおります。

特に当社グループの事業領域は、一般的な経済状況以外にも業績に影響を与えうる要因が数多く存在しているため、実際の業績等は様々な要因により将来の見通しと異なる場合があることをご承知おきください。